

重点プロジェクト計画概要一覧表（岐阜県）（令和7年度）

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関 (役割分担)	活用事業
岐阜県	1	畜産経営者の担い手の支援と家畜保健衛生所と連携した飼養衛生管理技術の向上	R5 ～ R7	畜産 就農	・飛騨牛繁殖研修センター研修生に対する就農支援 ・若手畜産経営者に対する技術支援	飛騨牛繁殖研修センター、畜産振興課、関係農林事務所農業振興課・農業普及課、市町村、J A、各家畜保健衛生所、岐阜県畜産協会	農業次世代人材投資事業、ぎふ農業経営者育成発展支援事業、飛騨牛繁殖マイスター育成事業、強い畜産構造改革支援事業、畜産G A P拡大推進加速化事業、畜産物安全対策事業
岐阜県	2	みどりの食料システム戦略を踏まえた環境負荷低減農業の推進	R5 ～ R7	持続可能な農業	・I P M技術の導入支援 ・防除暦（化学農業）のリスク換算の試算と評価 ・環境に配慮した栽培暦への変更 ・薬剤感受性の確認	各農林事務所農業普及課、農業技術センター、病害虫防除所	グリーンな栽培体系への転換サポート事業、全国農業システム化研究会実証調査
岐阜県	3	低標高地域における飼料用稲専用品種の導入と生産利用の拡大	R5 ～ R7	畜産	・稲W C S導入による高品質粗飼料の生産と収量の安定化 ・実証ほ場における稲W C S専用品種の導入による経営体の栽培面積の拡大	各農林事務所農業普及課、農業振興課（岐阜）、中山間農業研究所、畜産研究所、畜産振興課、岐阜県畜産協会	自給飼料生産・利用拡大推進事業、水田フル活用実践指導事業
岐阜県	4	「ねおスイート（天下富輪）」の生産安定とブランド定着に向けた技術確立	R4 ～ R7	果樹	・栽培技術確立に向けた実証ほの設置 ・栽培技術確立に向けた情報発信 ・ブランド確立に向けた関係機関との連携強化 ・他産地の情報収集	各農林事務所農業普及課（岐阜・掛斐）、農業技術センター、「ねおスイート」ブランド化推進協議会	園芸特産ブランド力強化推進事業
岐阜県	5	いちご栽培における安定生産に向けた栽培技術データを活用した指導方法の確立	R6 ～ R7	野菜 スマート農業	・栽培環境と生育データの収集と活用 ・栽培環境と生育データの分析による改善 ・育苗期の高温対策による花芽分化期の安定化	岐阜県いちごデータ駆動型農業推進協議会	次世代につながる営農体系の確立支援事業
岐阜県	6	儲ける農業経営者の育成支援（夏秋トマト）	R6 ～ R7	野菜 経営 就農	・会計データを用いた新規就農者の経営改善支援 ・夏秋トマト3 S栽培の経営診断と改善技術の実証	農林事務所農業普及課（飛騨）、中山間農業研究所、経営コンサルタント	儲ける農業経営者育成支援事業
岐阜県	7	米麦の品種転換による単収品質向上と環境に配慮した水田農業の推進	R6 ～ R7	稲作 普通畑作物 持続可能な農業	・米麦の品種転換による単収及び品質の向上 ・みどりの食料システム戦略を踏まえた米麦の生産	各農林事務所農業普及課、農業技術センター、中山間農業研究所、全農岐阜県本部、米麦改良協会	新技術導入支援事業、需要対応型ぎふ米産地ブランド確立事業、水田農業構造改革推進事業
岐阜県	8	栽培環境データの収集と活用による切バラ栽培体系の再検討	R6 ～ R7	花き スマート農業 持続可能な農業	・岐阜バラ会活動の活性化 ・ハウス栽培環境データの収集と利活用によるデータ駆動型切バラ栽培の習得 ・実証ほの設置による栽培環境改善の推進	各農林事務所農業普及課（岐阜・西濃）農業技術センター、国際園芸アカデミー	次世代につながる営農体系の確立支援事業（データ駆動型農業実践・展開支援事業）

重点プロジェクト計画概要一覧表（愛知県）（令和7年度）

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関 (役割分担)	活用事業
愛知県	1	ICTを活用した小麦の薬剤散布改善技術及び施肥改善技術	R6 ～ R8	普通畑作物 スマート農業	○最近の資材高騰から、大規模経営体における農薬費、肥料費が小麦生産費に占める割合が高くなっている。乗用管理機や肥料散布機で作業者の感覚により散布しているため、作業行程が重複することが多く、重複削減する技術が望まれている。 ○近年春季に温暖、多雨な年が続いているため、コムギ赤かび病(以下、赤かび病)の発生量が多くなっている。赤かび病対策には開花期における適期防除が必須となるが、春季の天候不順により、開花期の年次間差が大きく、適期を逸し、農薬散布回数が3回以上実施している場合もある。 ○小麦の収量、品質の安定化のためには、茎立期に生育診断し、施肥量を削減しなければならない。生育診断には、茎立期に草丈、茎数、葉色を計測・計数する必要があるが、多大な労力がかかるため、実施は困難である。 ○本事業では、GPS情報機器を搭載した乗用管理機及び肥料散布機を使用した精密散布により化学農薬及び化学肥料の散布量削減、AgriLookによる小麦の開花期予測に基づく赤かび病防除技術の確立により、防除回数の削減について検討する。さらに、ドローンの活用による効率的かつ省力的防除及び光学センサーを用いた省力的生育診断技術について検証する。 ○上記栽培管理を確立し、グリーンな栽培体系の普及を目指す。	JAあいち経済連、JA ・農業者との調整 ・調査協力 ・情報提供  農業総合試験場 ・研究成果の提供 ・技術指導 ・検討会での助言 ・研究会講師  普及指導センター ・JA及び農業者との調整 ・実証圃の進行管理と調査 ・技術指導	(国) グリーンな栽培体系加速化事業
愛知県	2	施設果菜類におけるグリーンな栽培体系の導入	R5 ～ R8	野菜 持続可能な農業 スマート農業	○トマト、イチゴ等果菜類では、病害虫の化学農薬への感受性低下が問題となっており、効率的・効果的な病害虫防除による農薬散布の省力化と化学農薬低減が求められている。 ○県内複数産地において、薬剤抵抗性を考慮した農薬の選定、天敵昆虫等生物農薬による病害虫防除技術、ICT機器によるハウス内の温湿度モニタリングデータを利用したハウス内環境の改善等を実証する。 ○実証試験を通して産地に適した技術を組立てることによって、グリーンな栽培体系の普及を目指す。	JAあいち三河 JA西三河 JA愛知東 ・農業者との調整 ・技術指導、調査補助 JAあいち経済連 ・資材情報等の提供  (株) IT工房Z ・ハウス内環境データの測定、灰色かび病発生リスクの解析  農業総合試験場環境基盤研究部 ・研究成果の提供 ・技術指導 ・検討会での助言 ・研究会講師  普及指導センター（尾張、海部、知多、西三河、豊田加茂、新城設楽、東三河、田原） ・JA及び農業者との調整 ・実証圃の進行管理と調査 ・技術指導	(国) グリーンな栽培体系加速化事業
愛知県	3	キク類における光を活用した害虫防除	R6 ～ R8	花き	○キク類（切花、鉢物）の施設栽培では、アザミウマ類の発生が多く薬剤費の増加や防除作業が負担となっている。産地では、従来からの薬剤防除や温室側面への赤色防虫ネットの設置、施設周囲の除草等の対策がされてきた。 ○近年、光によるアザミウマ類の防除が注目されており他の品目での実証が進められている。しかし、キク類は開花が日長反応することから慎重に導入検討する必要がある。一方でアザミウマ類は薬剤抵抗性がつきやすく大発生し易いことから薬剤防除に頼りすぎることは危険である。 ○そこで、アザミウマ類に効果があるとされている赤色光を発するLED機器を用いてアザミウマ類の防除、キク類への影響を実証し、県内産地のキク類の安定生産に資する。さらに、粘着シートによる赤色LED防除効果を確認するとともに、捕獲結果に基づく化学農薬の適期散布を行うことによる散布回数の減少効果を実証する。	JAあいち経済連、JA ・農業者との調整 ・調査協力 ・情報提供  農業総合試験場 ・試験方法に関する助言  農業者 ・実証圃の栽培管理 ・技術の検証  普及指導センター ・農業者との調整・指導 ・調査 ・栽培マニュアルの検討  農業経営課 ・事業推進に係る事務	(国) グリーンな栽培体系加速化事業
愛知県	4	イチジクのL型肥料を用いた減化学肥料かつ省力的施肥技術の開発	R3 ～ R7	果樹	○県内のイチジクは場の土壌診断結果を見ると多くの圃場でリン酸・カリ過剰となっている。 ○このため、農業総合試験場とJAあいち経済連が共同で基肥用配合肥料成分の見直しを行い、平成29年に、イチジク配合（8-2-2）を開発し、令和2年に、「環境に配慮したイチジクのL型肥料を用いた低コストかつ省力的施肥技術（以下新しい施肥技術）」を開発した。 ○この新しい施肥技術により、施肥量は40kg/10a削減ができ、施肥の省力化、生産資材コストの低減につながる。 ○そこで、新しい施肥技術による、果実品質、収穫量への影響を確認し、県内産地への導入を進める。	農業総合試験場 普及指導センター、農業経営課、園芸農産課、産地（農家）、愛知県果樹振興会	(国) グリーンな栽培体系加速化事業
愛知県	5	耕畜連携による飼料用トウモロコシ栽培体系の確立及び自給飼料供給体制の構築	R3 ～ R7	畜産 県が定める分野 (土壤肥料)	○養牛農家において、飼料価格の高騰から、自給飼料、特に嗜好性の良い飼料用トウモロコシの活用を模索する動きがあり、耕畜連携による飼料用トウモロコシの生産・利用の拡大が望まれているが、体制整備ができていない。 ○そこで、まなび地域における飼料用トウモロコシの利用に関する意向を調査する。 ○次に、土地利用に合わせた耕畜連携による飼料用トウモロコシの栽培体系を確立させるため、栽培前後の土壌分析、栽培状況（播種量、施肥量、作業内容、作業時間など）、生育及び収量調査を実施する。あわせて収穫物の品質調査として、飼料分析を行うとともに、牛の嗜好性を調査する。 ○飼料用トウモロコシにおける栽培体系の確立と併せて、供給体制の整備と耕畜連携における堆肥の流通システムの構築に取り組み、堆肥の利活用を促進する。	経済連、県畜産協 供給体制整備、堆肥の利活用推進  農業総合試験場 飼料用トウモロコシ栽培体系の確立  農業経営課、畜産課 事業実施支援	(国) グリーンな栽培体系加速化事業 (県) 耕畜連携支援強化事業

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関 (役割分担)	活用事業
愛知県	6	イチゴ炭疽病の防除対策 (施設果菜類におけるグ リーンな栽培体系の導 入)	R6 ～ R8	県が定める分野 (総合防除)、 持続可能な農 業、野菜	○QoI剤の感受性が低下したイチゴ炭疽病菌が蔓延している。同病原菌は土壌や資材等に残存するため防除が困難で対策が急務である。 ○夏季高温により育苗期の発病が増加しており、診断の遅れは感染拡大を助長し、苗数の不足や本圃での発病により産地に甚大な経済的被害を及ぼす。 ○育苗ほでの病害発生も顕在化しており検査抜き取りを励行しているが、被害を抑制できていない。 ○そこで、育苗期の診断および感染株除去により、イチゴ炭疽病の発生と被害拡大を抑制する。	農業総合試験場、研究機関（農業総合試験場環境基盤研究部）  普及指導センター（尾張、海部、知多、西三河、豊田加茂、新城政策、東三河、田原）	(国) グリーンな栽培体系加速化事業
愛知県	7	地域の実情に合わせた鳥 獣被害防止技術の実証・ 導入	R6 ～ R8	鳥獣被害対策	○本県の農作物に対する鳥獣被害金額は年間4～5億円で推移しており、甚大な被害が発生している。また、2016年度以降、鳥類による被害金額が獣額を上回っている。獣種別ではカラスによる被害が最多である。 ○被害防止対策は地域の作物、地形、栽培方法など地域の実情に合わせた形での対策が必要である。 ○農研機構が開発したカラス用侵入防止柵「くぐれんデグス君」等を地域の実情に合わせた形で設置し、侵入防止効果を実証する。	農業総合試験場  農業者、農業振興課、普及指導センター	(国) 鳥獣被害防止総合対策事業
愛知県	8	経営ビジョンの実践支援 による先駆的な経営体の 育成	R4 ～ R7	経営	○民間専門家とともに伴走型支援を行い、高度な経営支援を行う。 ○法人化や事業継承等に向けた取組事例を蓄積し、本件農業の中核を担う基幹経営体の育成(4,000経営体)に活用する。 ○普及指導員は、経営改善指導についての知識や経験が少ないため、民間専門家の支援に同席してノウハウを習得し、経営指導の資質向上を図る。	農業経営・就農支援センター、農業経営課、普及指導センター	(国) 農業経営・就農支援体制整備推進事業
愛知県	9	新規就農者の確保体制の 整備	R7 ～ R9	就農	○農業従事者の高齢化等に伴い新規就農者の確保は急務であり、次代の担い手を確保育成する必要がある。 特に、担い手の減少が心配される産地においては、新規参入者受入の機運が高まり、産地の維持・発展を目指す、生産者と関係機関が連携して研修受入体制を整備し、担い手の育成を図っている。一方で、研修受入機関が少ない、研修生が集まらない地域・品目がある。 ○就農希望者が適切な研修を受け、スムーズな就農に導くため、各地域の研修受入体制の整備、農地や空きハウスの斡旋する仕組みづくりを支援する。 ○愛知県で就農したい人材を確保するための就業オンラインプラットフォーム構築にむけ、就農準備チェックリスト作成、地域の情報発信等の支援を行う。	農業経営・就農支援センター、農業経営課、普及指導センター	(国) 新規就農者育成総合対策 (国) 就農サポート事業

重点プロジェクト計画概要一覧表（三重県）（令和7年度）

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関 (役割分担)	活用事業
三重県	1	水田農業の持続・発展に向けた基盤強化	R5 ～ R8	・稲作 ・普通畑作物	水稲、麦、大豆等の生産性の維持向上、担い手の経営基盤強化や水田営農のシステム化の取組により水田農業の基盤強化を図ります。	・県関係機関 (県庁主務課、研究所) ・JA	
三重県	2	伊勢茶産地を次世代につなげる構造改革の推進	R5 ～ R8	・県が定める分野（茶）	茶産地において、担い手への優良茶園の集約化、生産・販売方法の改善、担い手の育成に取り組み、構造改革を推進し、茶産地を次世代につなげることを目指します。	・県関係機関 (県庁主務課、研究所) ・茶業関係団体	
三重県	3	果樹産業の次代を切り拓く構造改革の推進	R5 ～ R8	・果樹	果樹産地が、産地プロフィールに基づき取り組む課題解決を支援し、産地の構造改革を推進します。また、産地プロフィールを作成していない果樹産地についても現状を診断し、産地プロフィールを作成します。	・県関係機関 (県庁主務課、研究所) ・JA	
三重県	4	消費を意識した花き花木産地の改革推進	R5 ～ R8	・花き	認知度向上に向けた取り組みや需要に応じた品目の導入等の取組により消費を意識した花き花木産地への改革を目指します。また、「物流2024年問題」に対応するために物流体制の構築に取り組みます。	・県関係機関 (県庁主務課、研究所) ・花き関係団体	
三重県	5	肉用牛経営安定のための和牛子牛生産拡大	R5 ～ R8	・畜産	県内における和牛子牛の生産拡大のために、繁殖雌牛の飼養・繁殖成績および子牛の哺育・育成技術改善、新規繁殖農家の掘り起こしと重点指導、地域内肥育一貫体制の構築に取り組み肉用牛経営安定を目指します。	・県関係機関 (県庁主務課、研究所) ・畜産関係団体 ・関係市町	
三重県	6	新たな取組による野菜産地の維持活性化	R5 ～ R8	・野菜 ・持続可能な農業	野菜産地の維持活性化に向けて、新規生産者の確保や新技術（スマート農業機械等）、新品目の導入に取り組みます。また、総合的な防除体系などの導入により環境に配慮した栽培技術を普及します。	・県関係機関 (県庁主務課、研究所) ・JA	
三重県	7	新規就農者の経営安定	R5 ～ R8	・就農	就農5年までの新規就農者に対し、早期に経営が自立できるよう、経営目標達成に向け支援を行います。また、地域の関係機関が連携した受入体制の構築に向け活動します。	・県庁主務課 ・関係市町	
三重県	8	担い手の経営理念の実現	R5 ～ R8	・経営 ・6次産業化 ・農業生産工程管理（GAP）	農業の担い手が、先進的な経営体で発展することで、農業生産力の維持拡大を目指して活動します。特に経営面の課題が明確になり集中的な支援が必要と考えられる重点対象に対して、6次産業化の支援、GAPの導入等により経営力向上に向けた支援に取り組みます。	・県庁主務課 ・関係市町	
三重県	9	農業被害軽減に向けた効果的な獣害対策の推進	R5 ～ R8	・鳥獣害対策	集落ぐるみの追い払いや侵入防止柵の整備・管理等の「被害対策」を引き続き進め、取組の拡大に向け、周辺地域などへの取組の波及を図ります。また、獣害対策と地域農業振興の視点を持ち、営農体制づくりや特産品づくりなど地域農業活性化に向けた支援につなげています。	・県関係機関 (県庁主務課、研究所) ・市町獣害対策協議会	
三重県	10	みどりの食料システム戦略・SDGsへの対応（生産環境）	R5 ～ R8	・県が定める分野（生産環境） ・持続可能な農業	IPMや土づくりの実践を拡大し、環境負荷の少ない栽培管理技術の普及を目指します。また、有機農業の推進に向けた環境づくりに取り組みます。	・県関係機関 (県庁主務課、研究所) ・JA ・農薬、資材メーカー等	
三重県	11	みどりの食料システム戦略・SDGsへの対応（畜産）	R5 ～ R8	・畜産 ・持続可能な農業	自給飼料やエコフィードの家畜利用への拡大、暑熱対策による飼養管理や良質な堆肥の生産・流通に取り組み、環境負荷の少ない持続的な畜産経営の確立を目指します。	・県関係機関 (県庁主務課、研究所) ・畜産関係団体	